

保育に関する模擬研究論文

タイトル

保育における集団活動が子どもの社会性発達に及ぼす影響

著者

九産大学 田中研究室

1. 序論

幼児期は、社会性の基盤が形成される重要な発達段階である。近年、保育現場では「個別性の尊重」と「協同性の涵養」をいかに両立させるかが課題となっている。先行研究（厚生労働省, 2020; 日本保育学会, 2019）においても、集団遊びや共同制作活動が子どもの社会的スキルを高める可能性が指摘されている。しかし、実証的データに基づいた検討は依然として不足している。本研究では、保育園児を対象とした観察調査を通じて、集団活動が子ども協調性および自己表現力に与える影響を明らかにすること目的とする。

2. 方法

2.1 対象

A市内の認可保育園に通う4歳児30名（男児15名、女児15名）を対象とした。

2.2 手続き

観察対象となる活動は以下の3種類とした。

1. 自由遊び
2. 集団遊び（ルールのあるゲームを含む）
3. 制作活動（共同制作を含む）

各活動中の子どもの行動をビデオ撮影し、後日行動カテゴリーに基づいて分析した。

2.3 評価基準

- 協調的行動：他児と協力、援助、役割分担を伴う行動
 - 自己表現的行動：自分の意見や感情を言語・非言語で表現する行動
-

3. 結果

以下に観察された行動の割合を示す。

活動内容 | 協調的行動 (%) | 自己表現的行動 (%)

| 活動内容 | | 協調的行動 (%) | | 自己表現的行動 (%) |
|------|--|-----------|--|-------------|
| 自由遊び | | 65 | | 40 |
| 集団遊び | | 80 | | 55 |
| 制作活動 | | 70 | | 60 |

分析の結果、集団遊びは協調的行動の割合が最も高く、制作活動では自己表現的行動が比較的多く見られた。

4. 考察

本研究では、集団遊びが協調性の発達に特に有効であることが示された。これは、ルールや役割分担が存在する場面において、子どもが互いに調整しながら行動する必要があるためと考えられる。また、制作活動における高い自己表現率は、創造的活動が子どもの意欲や主体性を引き出す契機となる可能性を示唆している。自由遊びにおいても一定の効果が確認されたが、社会性発達を意図的に促すには保育者による活動設計が重要であると考えられる。

5. 結論

本研究は、保育における集団活動が子どもの協調性および自己表現力の発達に寄与することを示唆した。今後はサンプル数を拡大し、年齢や活動の多様性を考慮した追試が求められる。さらに、ICT を活用した保育活動や家庭環境との関連性についても検討する必要がある。

参考文献

- 厚生労働省『幼児期の教育・保育に関する調査研究報告』(2020)
- 日本保育学会『保育学研究』第 58 卷 第 2 号 (2019)
- Vygotsky, L. S. (1978). *Mind in society: The development of higher psychological processes*. Harvard University Press.